

# 目次

まえがき……………003

## I 歴史認識の脱国民化に向けて

普遍的価値の国民的価値からの独立と再融合への道……………浅野豊美 015

外交官の目で読む『帝国の慰安婦』……………東郷和彦 029

慰安婦をめぐる歴史研究を深めるために……………外村 大 049

なぜ〈数〉を問うのか?……………中山大将 059

## II 文学に見る戦争とセクシャリティ

より大きな俯瞰図のもとに——朴裕河を弁護する……………四方田大彦 091

韓国文学から見た慰安婦像、その記憶の形成……………熊木 勉 113

国家と性——文学を通して『帝国の慰安婦』を読む……………中川成美 149

戦時性暴力とミソジニー——芥川龍之介『藪の中』を読む……………西 成彦 169

Ⅲ フェミニズムの足場をみつめる

「帝国の慰安婦」と「帝国の母」と……………加納実紀代 193

『からゆきさん』と『帝国の慰安婦』……………藤井貞和 213

朝鮮人「慰安婦」をめぐる支配権力構造……………熊谷奈緒子 227

『帝国の慰安婦』のポストコロニアリズム……………上野千鶴子 243

Ⅳ 東アジアの未来を考える

他山の石——台湾から『帝国の慰安婦』問題を考える……………天江喜久 261

慰安婦問題における人間と歴史……………小倉紀蔵 275

抵抗と絶望——主体なき主体に向かって……………金 哲 315